



ジェントルハート通信

No. 37 秋冬号
発行日 2012.12.10

『 次の時代を創る 』

理事 小森美登里

発行
NPO法人
ジェントルハートプロジェクト

事務局
〒210-0843
川崎市川崎区小田栄1-8-3 青山
Tel & Fax
045-845-3620 (小森)
E-mail admin@gentle-h.net
URL http://www.gentle-h.net

会員登録及びカンパは随時受付中
正会員 1口 2,000円
賛助会員 1口 1,000円
郵便振替
口座番号:00200-8- 111295
口座名義:ジェントルハートプロジェクト
振込用紙に会員の種別を明記下さい



目次:

巻頭コラム	P 1
私たちからの提言	P 2
展示会の報告	P 3
ジェントルハートコンサート	P 4
校長日記	P 5
活動の報告と今後の予定	P6-7
橋がかかる	P 8

ジェントルハート通信第37号
定価100円 (会員は無料)

娘の香澄が亡くなってからすでに14年以上の時間が過ぎました。ということは、香澄の人生とはほぼ同じ時を、私は遺族として生きているということになります。

遺族となってからの人生を思い返すといかに香澄の人生が短かったのかを実感しています。しかし残念ながら、その間このいじめ問題は好転しているとは言えません。

子どもたちが今日もどこかで自ら命を絶っている事実。また、内容の残忍さなど考えると、いじめ問題の深刻さは日に日に増していると言えます。

解決のために何が出来るのか、ということをただひたすら考え、活動が続けてきたわけですが、最近特に感じるのが、現場の先生のスキルアップと予防対策の確立の重要性で、これは一日も早くやらなければならない問題です。

小さなNPOの力ではどこまでのことが出来るかは未知数でしたが、それでも最近では先生方への研修などに呼んで頂く機会も増えて参りましたので、この部分につきましてもしっかりとやり続けていこうと思っています。

また、先月講演させて頂いた愛媛大学教育学部では、これから教職に就く皆さんへの働きかけがとても重要であるということを実感させられました。

本来であれば、国が、教師になる全ての学生へいじめ対応のカリキュラムを義務化しなければならない様な現状であると感じますが、今のところそのようなシステムは存在していないようです。

ここでは、教授のご了解を得て学生さんの講義後のレポートのいくつかを紹介させていただきます。

◆ 今回、自分のいじめに関する認識、考えが浅かったと痛感した。もし自分がいじめに悩む子どもから相談されたら、「あなたにも責任無いの?」という言葉を出してしまうのではないと思った。いじめにあっている子がどのような思いで自分に話しかけてくれたのか、どのように感じているのかを深く理解しようとせず、あいまいな対応をとってしまうと、さらに子どもを追い込んでしまう。

もっといじめについて知識を広げなければなりません。

◆ 今、自分の前でいじめの問題が上がってきたときにどうしたらいいのか、どう対処したらいいのか全然分かってない、知らなかったということでした。被害者責任論が人を死へと追い詰めてしまうこと、加害者にも苦しみがあるかも知れないこと、傍観者で身を守っていること、これらのいじめに関わる全ての人が「被害者」であること…。お話を聞いて、分かっていたようで、でも全く分かっていなかったような気がしました。

◆ 私は、子どもを受け入れて、子どもの真横に座って、子どもは何を望んでいるのか、一緒に悩み考えたい。そこに必要なのは理屈ではないだろう。「心」という、理屈で語れないものを前にして、理屈で説き伏せるのは、あまりに意味がないように思う。心と頭ではなく、心と心で向き合なくてはならないと私は思う。スキルアップしなければ、きっと子ども達は大人を信じられない。

◆ 「大丈夫」この言葉をうのみにして、今まで子ども達に接してきた自分が情けなかった。その奥をもっと考えてあげられて、そして解決に向けて全力を尽くせる教師になりたいと思います。

◆ 私は小学校の教師を目指しています。もしいじめがあったら、ある程度厳しく指導しなければならないと考えていましたが、ジェントルハートプロジェクトさんのお話を聞いて、そうではないかも知れないと思いました。厳しく指導することは、教師の考えや理想を子どもに押しつけているだけだけかも知れないということにも気づかされました。

残念ながら、紙面の関係で、これ以上の掲載は出来ませんが、教師という職業に大きな夢を抱き、子どもが大好きな彼らの心がこのまま大きく育つことを願わずにいられません。

つい最近まで、中学生、高校生だった彼らには、まだ当時の記憶がしっかりと残っています。そのことを考えても、すでに現場にいる先輩教師にとって彼らとの情報共有がより重要なヒントになると思います。

◆ 法人設立10周年をむかえての提言 ◆

去る10月30日に、当法人設立10周年にあたっての提言というかたちで、記者発表をさせていただきました。これまでの活動の中から得られた様々なものを整理しながら今回の提言を発表させていただきました。以下にその要旨を掲載します。

【 提言の要約 】

1) いじめ問題にどう向き合っていくべきか？

- ・ 「いじめ問題の本質は加害者問題である」
- ・ いじめ問題は被害者責任論や精神論といったものに矮小化されがちである。
- ・ 加害者がいなければ被害者も生まれない。
- ・ 学校という社会の中でいじめが発生していることを鑑みると、当事者同士の解決はほぼ不可能であり教師が正しく介入することが避けては通れない。
- ・ 問題解決には教師側に全責任を押しつけるという発想では解決しない。
- ・ 文部科学省、地方教育委員会、地域、親など含むすべての大人が現場教師の自己解決能力の向上エンパワメントできる社会的な支援システム構築が重要である。

2) どうして何でもかんでも「いじめ」なのか？

- ・ 学校によって、本来犯罪として扱われるべき恐喝、暴行等が「いじめ」で処理されている。
- ・ 犯罪の隠蔽は学校の越権行為で有り、本来なら犯人隠避罪を問われるレベルの問題。
- ・ 学校が加害児童生徒側の反省の機会さえ奪ってしまう事は、逆の意味で人権侵害である。
- ・ 本来学校は本来的に、いじめの予防にこそ、重点を置いて取り組む必要がある。

3) 厳罰化について

- ・ 厳罰化はしっかりした更正プログラムとセットでなければ、かえって逆効果になる。
- ・ 加害児童生徒のすさんだ心に寄り添うことなしに、威嚇するだけでは反省が望めない。

4) なぜ隠蔽が繰り返されるのか？

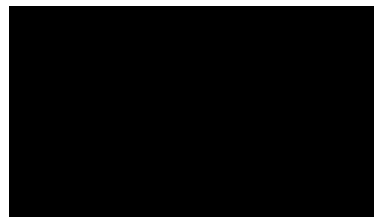
- ・ 教師の対人関係調整スキル低下や教師同士の連携不足等が背景にある。
(解決方法がわからないという現実がある)
- ・ いじめが表面化しても、教師が気がつかないふり・見て見ぬふりをする。
- ・ いじめの現場を認識しても教師が「けんか」「いじり」「からかい」といった軽い表現に置き換えて対応を先送りをしてしまうことが多い。

(よく使われる表現に『様子を見ていた』というものがあるが、これは『何もしない』ということと同じ)

- ・ 問題が大きくなり自殺事件等が起きた場合には、早期に対応をとらなかった教師や学校としては安全配慮義務違反等によって責任を追及されることを恐れて隠蔽することになる。
- ・ 裁判になったとしても、大抵の場合は司法が一方的に情報を持つ学校側を支持し、学校側が負けることは殆どない。こういった今の社会システム自体に隠蔽が繰り返される要因があるのではないか

5) どうしたら隠蔽がなくなるのか？

- ・ 私たちは2010年12月に下記の4項目の要望を文部科学省宛に出しています。
 - 一、 学校に関わる事件事故が起きた時は別紙の調査を直ちに(3日以内)行ってください。
(このとき提出した「調査質問のフォーマット」が、
大津の事件で実際に使われている)
 - 二、 調査の内容を、事件に関わる当事者やその保護者と共有してください。
 - 三、 「事故報告書」に、家族の知る情報や意見が記入できる欄を設けるよう、指示してください。
 - 四、 あらゆる調査に、当事者や保護者の意見を反映させてください。
- ・ 簡単に言えば、真実を知るために、被害者と情報を共有し、再発防止のためにも過去の事例に学ぶことが可能なシステムを作って下さいという事である。
- ・ このシステムが機能すれば、隠蔽抑止になり、再発防止策をたてる上でも役立つと考える。
- ・ 学校・教育委員会の「調査を望まない遺族もいる」という論拠はどこから用いているのかわからない。
- ・ そもそも一人の尊い命が失われたことに対して、調査をしないという選択はあり得ないのでは？
- ・ 遺族の心の回復にとって、真実に向き合うというプロセスが重要である。
- ・ 私たちは先述の4項目を再度確認し、改めて文部科学省に要望をしていきたい。
- ・ 要するに『システムの的に隠蔽できない仕組み』を作ることが隠蔽抑止には必要である。



◆ ジェントルハートメッセージ in 大津 ◆

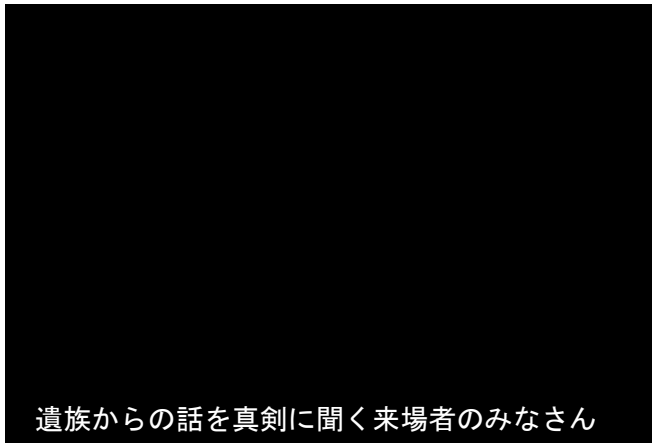
今年の7月頃から中学生いじめ自殺事件が大きく報道され、とかく話題になっている大津ですが、

偶然にもこの大津で、息子の悠くんをリンチ殺人で亡くされている青木さんから『悠くんが亡くなって10年以上が経過し、何かをしてあげたい』というお声をいただきました。

そのお話を受け、悠くんはジェントルハートメッセージの仲間でもあるので、大津で展示会を開催しようという話になり、8月29日から9月3日まで大津の駅にほど近い「大津百町館」において、ジェントルハートメッセージの展示を行いました。



展示に見入る子どもたち



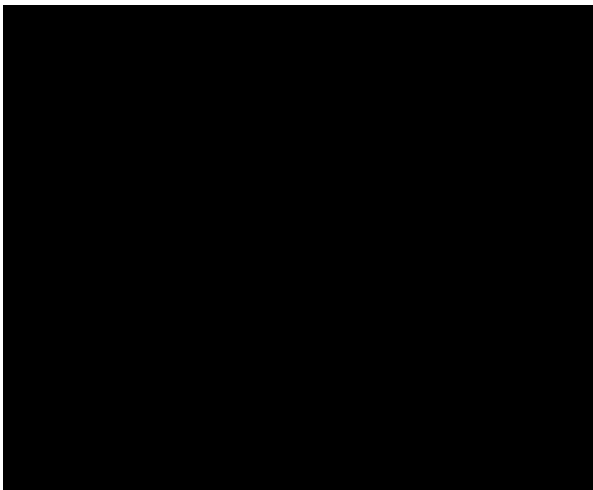
夏休みが終わりを迎える時期にも関わらず、たくさんの方が会場に足を運んでくださいました。

会場ではジェントルハートメッセージの展示の他に遺族や理事のミニ講演等も開催され、会場を訪れた皆さんも真剣に聞き入っていました。

また、子どもたちも含め、亡くなった子どもたちのパネルに向かい合う人たちの真剣な姿が、非常に印象的で、天国にいる子どもたちからのメッセージがたくさんの人に届いているという実感が持てる、暖かい空気に満たされた会場でした。

◆ 朗読劇『ハッピーバースデー』会場での展示報告 ◆

神奈川県内で毎年開催されているチャリティー公演 朗読劇『ハッピーバースデー』が11月10日に横須賀市文化会館で開催され、公演会場の一角をお借りして、私たちのパネル展である『ジェントルハートメッセージ』の展示をさせていただきました。これは昨年度の横浜関内ホールで行われた公演に続き、2度目の展示となりました。



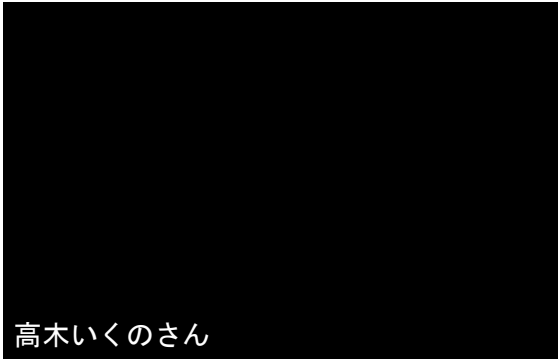
この『ハッピーバースデー』は児童カウンセラーの青木和雄さんと児童文学作家の吉富多美さんの共著で、多くの方に読まれている作品を一流の声優さんによる朗読劇というかたちで毎年行われている公演で、毎回多くのお客様が会場にいらしています。虐待やいじめ問題をテーマとしていることもあり、当日の来場者の方々も会場の一角に展示された『ジェントルハートメッセージ』を真剣に見ていただきました。

今後も こういったイベントの機会を是非利用させていただき、天国の子どもたちからのメッセージを多くの方に伝えていきたいと思ひます。



◆ 第9回ジェントルハートコンサート ◆

去る10月7日、TOKYO FMホールにおいて第9回ジェントルハートコンサートが開催されました。今年のコンサートも会場の皆様と出演者で、やさしいところやいのちについて感じる事の出来る、とても充実した時間をすごすことができたと思います。



高木いくのさん

当日の出演者はこのコンサートではおなじみの高木いくのさん、続いて今回が初めての出演となる普天間かおりさん、そして昨年に続いての出演となった森口博子さん、という個性豊かな出演者の皆さんによる、心温まる楽しいステージが繰り広げられました。

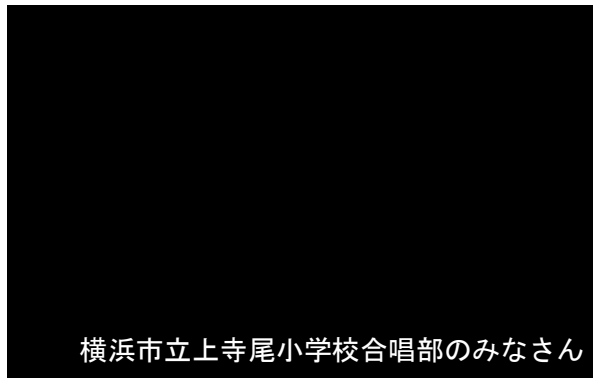


普天間かおりさん



森口博子さん

最後には横浜市立上寺尾小学校合唱部の子どもたちの歌声が披露され、会場に来ていただいた皆さんの心も澄み切った歌声に洗われているように感じられました。



横浜市立上寺尾小学校合唱部のみなさん

いろいろな角度からいじめ問題に取り組む中、音楽を通してやさしいところやいのちの大切さを感じることをコンセプトにスタートしたこの企画が、着実に成長しているという実感が持てるコンサートでした。

◆ 遂に1,000カ所突破!! ◆

2003年の設立以来、ジェントルハートプロジェクトの活動の柱として全国の学校や教育委員会及び地域の皆様にお届けしてきた講演が、2013年1月中には1,000カ所を突破することになりました。これもひとえに、ジェントルハートプロジェクトの活動にご理解、ご賛同いただいた皆様のおかげと、心より感謝いたします。今後もさらに講演の輪を広げ、全国に「やさしい心」を伝えていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

《都道府県別の実績》(1,000回までの集計)

都道府県	回数	都道府県	回数	都道府県	回数	都道府県	回数	
1 神奈川	281	6 大阪	39	10 静岡	25	17 京都	10	
2 千葉	120	6 埼玉	39	12 茨城	18	18 福岡	9	
3 東京都	104	8 鹿児島	27	13 愛知	14	18 福島	9	
4 新潟	69	9 兵庫県	26	14 北海道	13	20 愛媛	8	
5 栃木	57	10 岡山	25	14 三重	13	20 滋賀	8	
				16 岐阜	12		その他	74

NPO法人ジェントルハートプロジェクト 理事・事務局長 川崎市立富士見中学校 校長 青山正彦

10月から始まった2学期も11月の後半になると文化的な学校行事も一段落し、3年生の進路や来年度の準備に取りかかる時期となってきますが、今年の合唱コンクールではとても素晴らしい内容が発表されました。

3学年が素晴らしく上手であることは例年の通りでしたが、1学年のクラス合唱はどのクラスもとてもレベルが高く、難易度の高い合唱曲にチャレンジをしていました。

2学年も最優秀が2クラスになるなど審査に苦慮するほどの6クラスの仕上がりの差は僅差でした。自由曲選曲のクラス協議、夏休みから猛練習を重ねた伴奏者、ソプラノ、アルト、テノール、バスのパート毎に責任を果たしたパートリーダー、そしてクラス全体をまとめ上げた指揮者、課題曲を磨き上げ自由曲でクラスの特色を活かす協同作業には、全学年18クラスに様々なドラマが繰り広げられていました。卒業文集に綴られる中学校生活での思いで、部活動と修学旅行と同様に多いのは合唱コンクールである理由が分かる気がします。

昨年度に増して今年度になっても、理科作品展での全国進出、吹奏楽部の金賞、男子駅伝の県大会出場、総合体育大会では相撲部と男子剣道部の優勝などの生徒の活躍が続くなかで、普段の校内では先生方が生徒を褒めている様子が頻繁に見受けられています。

ある先生には「褒め固め」なる得意技があるようですが、子どもたちの行動を本当に良く見ていて、効果的に褒めています。叱りたいから問題を起こす心理と、褒められて自分の存在を認めて貰いたいという心理は一見似通ったところがありますが、生徒全体に与える影響度には天と地ほどの大きな違いが出てきます。

褒めることは全校の生徒の前での方がより効果的で、褒められる事例を多くの生徒に広げることと同時にできます。しかし叱る場合には逆に、自分の過ちに向き合える様に個別に取り扱わなくてはなりません。

叱り方は大変難しく、世の中あまりに悪いことが沢山はびこっていますから、生徒たちは自分の過ちと世間の悪行とを無意識に比較し、時には不正義や理不尽性を強く認識してしまいます。

生徒指導上、褒める方が比較にならないほど有益なことは百も承知で、でも叱らなければならない場面は少なくありません。それでも、叱って褒めて、褒めて叱っての日々です。褒めると調子に乗るとか弊害を説く方もいるようですが、混迷極めるこの国の姿と、その国の未来を担おうとしている子どもたちの厳しい現実と接している立場の者として、私は同感できません。誤解を恐れずに申し上げれば、3万人もの自殺者を出す「調子の悪い」この国にあって、調子の良い、調子に乗った学校経営が出来たなら本望だと思っています。

褒めるに繋げて私事になりますが、昨年の終戦記念日に初孫が生まれました。「りん」と名付けられた女の子は、わが子の誕生から28年後の新たな家族として、今ヨチヨチと彼女の人生を歩み始めています。

孫の誕生以来、子どもの成長をこんなにも客観的に見れることに、とても新鮮な驚きを感じました。これまでの子育て経験から感じた、新たな発見かもしれません。

双子の息子たちのときには育児休業は制度化されておらず、2ヵ月後に共働きを再開しなければなりません。その後は、毎日の生活が綱渡りで全く余裕のない子育ての連続でした。とても自分の子育てが、子どものために良いのか客観的に捉える余裕などありませんでした。それどころか、自分の段取りの悪さを棚に上げて、子どもたちには急がせることばかりで、余計なストレスを与えたり、悲しい気持ちにさせたりしていたと思います。精神的にも余裕をもって、しっかりと息子たちの育ちをみる事が出来ていたら、彼らの成長をもっと認めてあげて、もっと沢山褒めてあげることも出来たのではないかと思います。そのことを思うと、本当に悔やまれることが少なくありません。

先日、海外での学校の様子を紹介するテレビ番組で、ポジティブに友達を紹介する内容に、なるほどと思ったことがありました。「この子は、〇〇が得意のAちゃん、こっちの子は〇〇の上手なBちゃんです」というように、クラス全員を紹介していくものでした。一人ひとりのポジティブな面をしっかりと捉え、認めていることに、日本との違いを再確認したという話でした。

良いところを積極的に認めることを「〇(まる)の眼鏡」と言われていますが、クラス全員の紹介が終わると、クラスの雰囲気は優しくポジティブになるそうです。良いところや上手にできることを、しっかりとみてあげていると、いろいろな面でプラスの作用がはたらくようです。

「×(ばつ)の減点主義よりも、〇(まる)の加点主義が良い」ことや「人間は、他人から指摘される方法では、なかなか変わらない」ということを心理学の分野で聞きます。良くできたときを承認されると「できる自分」が潜在意識に刻印され、セルフイメージが高まります。

逆に、自分が間違ったときに罰を受けると「間違った自分」が潜在意識に印象として残り、間違った行動を起こしやすくなります。このことは動物の訓練でも「加点」の方が、はるかによく物事を覚え、訓練の効果が上がることが実証されています。

人間の行動や心理では、それほど単純にはいかなかったかもしれませんが、褒めること=加点の効用は前述した通り調子を上げます。

加点主義で、ポジティブに子育てができれば、子どもたちはきっと、人にも優しく逞しく育っていくのではないのでしょうか。

褒められ認められた「できる自分」、高まったセルフイメージとは、某省が向上に努めている自己肯定感や自尊感情と同義であるならば、罰や減点する引き算ではなく、加点の足し算で良いところを積極的に認め、褒めることを加えて「良い調子」に出来ないのでしょうか。

やたら威勢のいい、声の大きな施策やキナ臭い政策ばかりが目立つ選挙前ですが、選ぶ側の私たちの民度の質が今回も問われようとしています。

子どもたちにも誇れる選択がされ、この国の未来を託す子どもたちを大切に出来る社会になることを望みたいと思います。

◆ 活動のご報告と今後の予定 ◆

日付	主催者	都道府県	都市	参加人数
2012/11/1	城北埼玉中学校	埼玉	川越	520
2012/11/3	NHK「人権インタビュー」研究会	東京	渋谷	15
2012/11/4	「第3回いわて親子・家庭フォーラム」	岩手	盛岡	200
2012/11/6	愛媛大学	愛媛	松山	250
2012/11/7	岡山少年院	岡山	岡山	60
2012/11/7	西湘地区教育長協議会	神奈川	小田原	25
2012/11/8	熊本市立西山中学校	熊本	熊本	600
2012/11/9	岡崎市小中学校教職員研修会	愛知	岡崎	180
2012/11/9	船橋市PTA連合会研究大会	千葉	船橋	800
2012/11/10	河内長野市立南花台東小学校	大阪	河内長野	200
2012/11/10	河内長野市立南花台西小学校	大阪	河内長野	140
2012/11/10	上越市立国府小学校	新潟	上越	274
2012/11/13	静岡県更生保護大会	静岡	島田	600
2012/11/14	横浜市泉区人権研修	神奈川	横浜	60
2012/11/14	市川市立第四中学校	千葉	市川	100
2012/11/15	新潟市立潟東南小学校	新潟	新潟	110
2012/11/16	新潟市立巻北小学校	新潟	新潟	244
2012/11/17	和気町立和気中学校	岡山	和気郡	380
2012/11/20	滋賀県教委生徒指導担当研修	滋賀	大津	420
2012/11/20	高崎市立中尾中学校	群馬	高崎	800
2012/11/21	川崎市幸市民館	神奈川	川崎	20
2012/11/22	横須賀市立不入斗中学校PTA	神奈川	横須賀	50
2012/11/22	千葉県立柏の葉高等学校	千葉	柏	1,050
2012/11/26	千葉県立安房拓心高等学校	千葉	南房総	500
2012/11/27	横浜市立八景小学校	神奈川	横浜	200
2012/11/28	愛媛大学	愛媛	松山	100
2012/12/1	山口県被害者週間	山口	宇部	400
2012/12/3	横浜市立日野小学校	神奈川	横浜	210
2012/12/4	児童家庭支援センター子どもの教育環境に関する学習会	東京	千代田	50
2012/12/5	東海大学付属望洋高等学校	千葉	市原	50
2012/12/6	霧島市立舞鶴中学校	鹿児島	霧島	900
2012/12/7	横浜市立青葉台小学校	神奈川	横浜	350
2012/12/8	上尾市教育委員会	埼玉	上尾	200
2012/12/8	野田市小中学校PTA連絡協議会	千葉	野田	150
2012/12/10	練馬区「青少年のための人権学習講座」	東京	練馬	
2012/12/11	佐倉市立佐倉東中学校	千葉	佐倉	350
2012/12/13	埼玉平成高等学校	埼玉	入間郡	51
2012/12/14	弥富市立弥富中学校	愛知	弥富	750

日付	主催者	都道府県	都市	参加人数
2012/12/16	市原市男女共同参画の会	千葉	市原	80
2012/12/17	佐倉市立上志津中学校	千葉	佐倉	350
2012/12/25	横浜市消防局	神奈川	横浜	
2013/1/9	大田区立嶺町小学校	東京	大田区	212
2013/1/11	佐倉市教育委員会	千葉	佐倉	180
2013/1/15	佐倉市立染井野小学校	千葉	佐倉	350
2013/1/22	田辺市第二小・東陽中子どもサポート	和歌山	田辺	300
2013/1/22	越谷市立弥栄小学校	埼玉	越谷	
2013/1/24	栗東市立栗東西中学校	滋賀	栗東	700
2013/1/26	『性を語る会』	東京	世田谷	50
2013/1/27	保育士会勉強会	宮城	仙台	500
2013/1/29	緑区PTA連絡協議会	神奈川	横浜	480
2013/1/31	船橋市立行田西小学校	千葉	船橋	200
2013/1/31	江東区人権推進課講座	東京	江東	30
2013/2/6	船橋市小学校教育研究協議会	千葉	船橋	70
2013/2/7	彦根市立東中学校	滋賀	彦根	350
2013/2/13	滋賀県立東大津高等学校	滋賀	大津	800
2013/2/15	横浜市立小山台小学校	神奈川	横浜	230
2013/2/17	アミークスインターナショナル	沖縄	うるま	
2013/2/19	横浜市立日野南小学校	神奈川	横浜	180
2013/2/19	足立区人権講演会	東京	足立区	350
2013/2/21	神奈川区人権研修	神奈川	横浜	100
2013/2/23	教育のつどい in 野田	千葉	野田	
2013/3/24	河内長野市東中学校区青少年健全育成会	大阪	河内長野	100
2013/4/6	滋賀県PTA代表者研修会	滋賀	近江八幡	800
2013/4/17	藤嶺学園藤沢中学校	神奈川	藤沢	
2013/4/18	宇都宮文星女子高等学校	栃木	宇都宮	
2013/4/23	岐阜県中津川市立第二中学校	岐阜	中津川	530
2013/4/24	滋賀県立野洲高等学校	滋賀	野洲	
2013/4/25	横浜市立釜利谷中学校	神奈川	横浜	650
2013/6/5	幼・小・中 PTA指導者人権教育研修会	岡山	岡山	
2013/6/13	幼・小・中 PTA指導者人権教育研修会	岡山	岡山	
2013/6/18	幼・小・中 PTA指導者人権教育研修会	岡山	岡山	
2013/7/26	堺市人権教育研究会	大阪	堺	1,800
2013/8/28	津市教育委員会教育研修会	三重	津	1,200
2013/10/31	鳥取県立岩美高等学校	鳥取	岩美郡	300

◇ 橋がかかる ◇ ひととひととの出会い、そこにかかる橋

ここは毎回ジェントルハートプロジェクトに関わる方々の思いなどを自由にお書き頂くコーナーです。今回は岡山県和気町立和気中学校の田上泰裕先生にお願いいたしました。

「ATM」

岡山県和気町立和気中学校 教諭 田上 泰裕

ジェントルハート通信をご覧の皆様、こんにちは。私は田上泰裕(たのうえやすひろ)と申します。1980年、茨城県つくば市生まれ。18歳までつくば市で過ごし、思いつき(?)で、縁もゆかりもない北海道の大学に進学。卒業後、2002年から2010年まで北海道留萌管内で中学校音楽科担当として勤務しました。2011年からは、またもや縁もゆかりもない岡山県へと移り、現在の勤務校、和気(わけ)町立和気中学校に赴任しました。というわけで「人生なるようになる」「思いついたら即行動」(笑)をモットーに生きております。

小森美登里さんとの出会いも、そんな感じで始まりました。とある知人から、たまたま小森さんについての話を聞くことができました。その後、職員室で何となくその話題を出していたら、学校の図書館司書の先生が、小森さんの著書「やさしい心が一番大切だよ」を紹介してくれたのです。一気に読みました。そして、一気に引き込まれました。「絶対この人に和気中学校に来てもらうぞ」と、そのとき決意しました。すぐに小森さんに直接電話をして「この日に来て下さい！」と直接お願いしました。遠方からお招きするにあたって、困難なこともありましたが、半ば強引に話を進めていきました(小森さん、色々ご迷惑をかけて、ゴメンナサイ!)

小森さんの講演は、とても心に響くものでした。もちろん、いじめの残酷さや悲しさ、母親としての思い、香澄さんの思い…その全てが響いたのですが、一番響いたこと(いや、刺さった、という方が正しいかな?)は、「先生！学校からいじめをなくして下さい！お願いします！」というメッセージを投げかけられたことです。もちろん小森さんは、直接そういう話をされたわけではありません。しかし私は「学校でいじめをしている生徒への指導は、学校の先生しかできないのです。お願いします。」とされているように感じたのです。

「学校内のいじめを無くせるのは、学校の先生しかいない」…この言葉は、私が初任者のときに、先輩先生から真っ先に教わったことでした。小森さんの講演を聞きながら、涙があふれるとともに、自分の責任感や使命感が揺さぶられました。「私は、教師としていじめをなくすため、

予防するための最大の努力をしているだろうか。何かあったとき「とりあえず様子を見て」いないだろうか。子どもたちの心に寄り添っているだろうか。子どもたちにとって“スポンジのような存在”になれているだろうか。」たくさんの思いが沸いてきました。

いじめをなくすためにはどうすればよいか。私たち教師がすべき大切なことはたくさんあると思いますが、私が最も重要視しているのは「相手をよく知る」ということです。

私は、いじめている側は、いじめる側を「自分より低いもの」として見ていることが多いと感じます。そして「相手を低く見る」ということは「相手のことをよく知らない」から起こることなのではないか、と考えています。相手はどんな性格で、どんな好みがあって、どんな夢があって、何を思い、何を考え、どうやって生きているのか…。そういったことを、お互い知れば知るほど、いじめにつながりにくくなるのではないかと考えています。つまり「こころの交流」が、大切なのではないかと。我々教師は、学級活動や道徳教育、部活動などでそういう機会をたくさん作ってやり、交流を見守りながら、自らも「ともに交流していく」ことが必要なのではないのでしょうか。いじめ問題には、いわゆる「指導」が必要ですが、それも「こころの交流」があってこそその「指導」だと思っております。

…ちなみに、この原稿のタイトルの「ATM」ですが、私の、いじめ問題を含む人権教育を推進するにあたっての信念である「(A)明るく(T)楽しく(M)前向きに」の頭文字をとったものです(何の意味もありません。こういう語呂合わせが好きだけです。笑)明るく楽しく…、という誤解があるかも知れませんが、人権教育は、これから自由に幸せな人生を歩む子どもたちのための教育です。明るく楽しく前向きにしたいのです。

講演終了後、和気駅で小森さんを見送ったときに、見えなくなるまで手を振って下さった姿が目に残っています。どうかこれからもお体に留意され、一人でも多くの子どもたちに「やさしい心」の大切さを伝えていって下さい。一層のご活躍をお祈りしております。

